学校体育におけるボールゲームの運動領域論に関する一考察

A study on the ball games curriculum in school physical education

1K05B166　　那須　春美
指導教員　　主査　吉永武史先生　　副査　吉村正先生

＜序章＞

私はこれまで，学校の運動部活動としてソフトボール，バレーボール、サッカーという戦術のタイプが異なるボールゲームを経験してきた．これらの経験を通じて，ボールゲームにおける分類の仕方，すなわちボールゲームの領域構成に強い興味を持った．また，学校体育においてボールゲームは子どもたちに人気がある運動種目だが，その種目選択はワンパターンになりがちであり，教科内容の体系づけがなされていないのではないかという疑問を抱いた．そこで，ボールゲームを学校体育という範囲に焦点化して学習指導要領における内容構成に関連付けながら，様々な特性や条件からボールゲームを分類ならびに整理して，現在の領域構成のあり方について検討し，どのような分類基準が適切であるかについて考察していきたいと考えた．

そこで本研究では，学習指導要領におけるボールゲームの内容構成の変遷を基盤として，研究を進めていく．また，あらゆる分類を調査・検討し，今後の学校体育におけるボールゲームの教科内容の体系化を踏まえたカリキュラム編成，及びそれを実現していくための効果的な分類基準を考察するということを目的とする．

研究の方法については，戦後から現在までの学習指導要領の変遷をたどっていき，その特性や傾向などを考察していく．また，学習指導要領の変遷を見ていく中で，（保健）体育科の目標ならびに内容構成についてもまとめていく．さらに，Werner と Almond による「Models of Games Education」（1990）を通して，英語圏におけるボールゲームの運動領域論についても検討する．

これらを通して，学校体育で適用されるボールゲームの分類を見直し，2008年の3月に告示された学習指導要領と照合することでこれからの学校体育におけるボールゲームのカリキュラムについて検討していく．

＜第1章＞

戦後の学習指導要領に示された（保健）体育科の基本的性格や目的・目標を取り上げ，その変化の過程をまとめた．社会的ニーズの変化にともなって，重点目標に大きな変化がみられる．（保健）体育科の目的・目標論は，運動の手段的価値から運動目的論へと移ってきたのである．

＜第2章＞

諸外国におけるボールゲームの分類論について取り上げ，カリキュラム編成を行う際の体系的な選択方法をいくつか紹介した．Mauldon と Redfern による技術・技能的要素に着目した分類体系，Ellis による技術的要素に加えて，戦術・戦略的要素を盛り込んだ分類体系，Thorpe と Bunker，Almond による，戦術・戦略的要素に着目した発展的な分類体系の3つである．Thorpe と Bunker，Almond の分類論は，新学習指導要領におけるボールゲームの分類の仕方にきわめて類似しており，系統的な学習および効果的な種目選択および系統的な指導・学習が期待できることとなった．

＜第3章＞

新学習指導要領は2008（平成20）年に小学校、中学校について告示された．その改訂の背景をあげるとともに，ボールゲーム領域における変更点，またそのカリキュラム編成について検討した．種目固有の技能ではなく攻守の特徴（類似性・異質性）や「型」に共通する動きや技能を系統的に身につけるという視点から種目を整理し「ゴール型ゲーム」，「ネット型ゲーム」，および「ベースボール型ゲーム」という分類体系が適用されたことにより，学習内容が明確化され，カリキュラムの組み方 が多様化した．

＜結章＞

様々な特性や条件からボールゲームを検討し，学校体育における領域構成のあり方および適正な分類基準について考察してきたが，2008（平成20）年に告示された新学習指導要領によって，ボールゲームの教科内容の体系化を踏まえたカリキュラム編成を見込むことができるようになるだろう．運動の基礎・基本を培った上で，学習者の自主的・自発的な体育授業を展開していき，その上で楽しい体育をめざす，ということが実現していくことを望み，本研究のまとめとする．